

北海道

しんとくちょうりつ  
新得町立  
とむらうししょうがっこう  
富村牛小学校

〔6年〕藤原彩夢 〔5年〕沼澤しずく／山岸毬愛

## 地域を愛する心を育む トムラウシ少年グリーンクラブ活動



### 学校紹介

新得町立富村牛小学校は、北海道の重心、四季の移り変わりにより景観が美しく変化する大雪山国立公園内に位置します。保育園、小学校、中学校が併設し、小学校は1・2年生の複式、4年生の単式、5・6年生の複式による3つの学級から成ります。

創立は昭和24年で、全校児童数は10名です。そのうち4名は山村留学生で、それぞれ千葉県・埼玉県・福井県から来ています。

学校教育目標は、「たくましく実践力あふれる子どもの育成」で、冬はスキー、夏は水泳、そして1年を通してバドミントン活動に取り組み、体を鍛えています。特色ある活動としては、トムラウシ少年グリーンクラブと連携し、地域の教育素材を生かした体験学習の充実です。また、運動会・学芸会は地域住民が皆学校に集い、共に行事を創り上げ、子どもと共に歩む教育活動を展開しています。

### 活動場所

「トムラ散策路」は、学校の周辺に位置する、ミズナラやシナノキ、トドマツなどが茂る4.4haの国有林です。平成21年6月25日に、十勝西部森林管理署東大雪支署と「遊々の森」協定を結び、学校が自由な発想で自然体験学習を行える場として整備しました。一年を通じて、自然観察や生き物調査を行い、森林管理署のご指導の下、自然体験教室なども実施しています。



サミットに参加してみて…

### 今後の夢・希望・活動計画

これからも「トムラ散策路(遊々の森)」の中で、森林教室や生き物観察など、いろいろな自然体験学習を行っていきたいです。今回の子どもサミットの中で、ツリーハウスがある学校の活動に触れ、とてもうれしかったです。ですから、トムラ散策路にもツリーハウスができたらいなと思います。また、サミットで知り合った他府県の学校からも手紙が届き、これからも自然体験を柱とする学校同士で交流し合っていたらいいなと思います。



北海道  
しべちやちようりつ  
標茶町立  
なかちやんべつしょうがっこう  
中茶安別小学校

〔6年〕山本光貴 〔5年〕岩本空

## 学校林からのメッセージ



### 学校紹介

中茶安別小中学校は、釧路湿原の北に位置する標茶町の南東部・チャンベツ地区にある全校児童生徒26名の小さな学校です。校舎は釧路から中標津へ向かう国道272号線と、厚岸から標茶市街へ向かう道道14号線の交わるところにあります。標茶町の基幹産業は酪農で、本校の子ども達もほとんどが酪農を営んでいる家庭の子ども達です。ですから学校の勉強だけでなく、家の仕事のお手伝いをする事で、力を合わせて働くことの大切さや、自然と共に生きることのすばらしさを体感しながら毎日元気に生活しています。

### 活動場所

本校から直線距離にして800mほど離れたところにある学校林「るんるんフォレスト」。そこが私たちのメインフィールドです。この学校林は開校以来、多くの先輩たち・保護者の方々が定期的に植樹・伐採、下草刈りをして保全してきた混合樹林です。学校林には全部で7本の散策路があり、それぞれに子ども達が名前をつけて親しんでいます。その散策路を進んだ最奥部には沼があり、その畔に自慢のツリーハウスが建っています。そこを拠点として、1年を通して自然とふれあい、自然を学び、そして自然から学ぶ活動を行っています。



サミットに参加してみても…

### 今後の夢・希望・活動計画

今回のサミットに参加して、全国各地の小学校の活動の様子を知ることができ、地域の特性をもっと生かした活動を本校でも進めていきたいと感じました。具体的には、釧路湿原という最高の素材を掘り下げ、生物多様性をキーワードにした包括的な環境教育ができればと考えています。そのためにも、今後は活動内容の多様化と整理を図り、小中9年間を見通したカリキュラムを作ることができたらと思います。そして、学校林と周辺地域の自然との結びつきを体験的に学び、全ての命を心から大切にできる子ども達に育てていきたいと思っています。



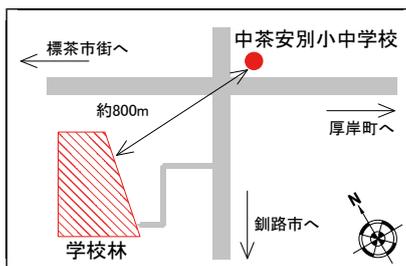
# 学校林からのメッセージ

北海道標茶町立中茶安別小学校 6年 山本 光貴  
5年 岩本 空

## 【私たちの学校林について】

- 昭和6年スタート。
- 広さは約10ha。これまでに約10万本を植樹。
- 学校林の一番奥には自慢のツリーハウスがある。
- 実のなる木（リンゴなど）も育てている。

ツリーハウス



## 春の学校林

ぼくたちの学校では、春夏秋の3回、全校で環境について学ぶ学校林活動を行っています。春の学校林では、前年の秋につけた冬囲いを外したり、木の高さや太さを測る活動などを行っています。また、去年は年輪を使って家族年表を作ったりしました。

春

夏

冬

秋



## スノーシューキング

冬になると小学3・4年生はスノーシューをはき、キツネなどの足跡を探して、道の消えた雪野原を歩きます。足跡だけでなく、食べ残しやフンなども見つかります。スノーシューで歩くのは大変だけど楽しいです。



## 水辺の生き物探し

夏になると、3・4年生は学校林にある沼や小川で生き物を探します。ぼくが3年生の時は、ドジョウをつかまえました。その他にもトゲウオやオタマジャクンをつかまえました。でも思ったより生き物が少ないのが少し残念です。



## ツリーイング

秋になると小学3・4年生は木にロープをかけて登るツリーイングというものをします。これは、僕たちの中で一番人気の活動です。ツリーイングの時には必ず、インストラクターの方が教えに来てくれます。この他にも、僕たちの学校林には、毎年たくさんの方が来て色々な事を教えてくれます。

# 標茶町立中茶安別小学校



## 1 実践の成果

実践の効果や子どもの成長、今後の期待など

● 春・夏・秋、計3回の学校林活動を毎年  
● 行い、森林とそこで暮らす生き物たちとの  
関係を季節の変化と合わせて理解したり実感すること  
で、環境についてより深く考える機会となっている。例  
えば、今年はネズミによる食害がひどく、2年前に植樹

した苗木の1/5がだめになってしまったが、子ども達  
はその様子からなぜそうなったのか、気候などに原因が  
あるのかなど多面的に考えようとする態度が育ってきて  
いる。今後も、生物多様性の視点からより広い視点で学  
校林と関わってほしいと願っている。

## 2 実践の課題

苦勞したことや困ったことなど

● 長年続けていると逆に活動がマンネリ化  
● してしまうのが常に抱えている課題といえ  
る。実際、新しい活動をつくる時間的・人的余裕も最近  
はなくなっているのが実情である。全校で行う学校林活

動では、釧路湿原森林ふれあい推進センターに毎回講師  
をお願いしているが、やはり次はどのような活動を組む  
かという点で苦勞されているところである。

## 3 課題への対応

工夫したことや課題の解決策など

● 4年前、本校に着任した教頭が野外教育  
● に明るい方だったことから、様々な方を講  
師に招いて、活動が一気に広がった経緯がある。子ども  
からの発表にもあるツリーイングをはじめ、道立少年自

然の家(ネイパル厚岸)の職員の方々などに関わってい  
ただき、よりダイナミックな活動が可能となった。全て  
の教員が得意としている分野ではないので、大変助かっ  
ているところである。

## 4 その他

今後の計画や方向、抱負や希望など

● 多様な活動が可能となったことで、今後  
● はそれらのねらいや内容を精査し、小学校  
から中学校までの一貫した環境教育カリキュラムとして  
形にできたらと考えている。また、地元に残って家業

(酪農業)を継ぐ子ども達も多いので、自然と深く関わ  
る職業として、より多面的な知識と将来への夢を持って  
成長してほしいと願っている。



〔6年〕武山朝陽／佐々木美波

宮城県

いしのまきしりつ  
石巻市立  
きたかみしょうがっこう  
北上小学校

# 「わたしたちの防災」 ～裏山改造計画～

## 学校紹介

北上小学校は、新北上川河口に位置する学校で、東日本大震災により被災した石巻市立相川小学校、石巻市立吉浜小学校と石巻市立橋浦小学校の3校が統合して、平成25年4月新設されました。

児童数は、130名で、「逆境に立ち向かう」という花言葉のハマギクをモチーフにした校章を掲げ、ふるさと北上に誇りと愛着をもてる子どもたちの育成を目指しています。

## 活動場所

3校の統合にあたり、校舎は旧橋浦小学校の校舎を使うことになりました。校舎のすぐ裏に、“裏山”があり、橋浦小学校(開校130年)時代には、子どもたちの遊び場として、また地域の方が集う場所として活用されていたそうですが、次第に人が入らなくなり、手入れもされないままになっていました。

昨年度、森林インストラクターさんのご協力により、伐採や手入れが進み、遊歩道や広場が整備されました。現在は、授業に、お弁当を食べる場所に、放課後や休日の遊び場に、そして、津波警報発令時の避難場所に活用されています。



サミットに参加してみて・・・

## 今後の夢・希望・活動計画

各学校の取り組みの様子などを聞くことは大変参考になりました。特に、森林や山を身近なものに感じ、活動の幅を広げるために、“マイツリー”を決める、種からの樹木の生長を追うなどの取り組みは、命を感じ、継続して課題をもって取り組める活動であると思いました。参考にしていきたいと思います。

## 「わたしたちの防災」～裏山改造計画～

宮城県石巻市立北上小学校  
6年 武山 朝陽  
佐々木美波

### 1. 学校紹介

石巻市北上町は、石巻市北東部を流れる北上川の河口北岸にひろがる町です。南三陸金華山国定公園の名所「神割崎」や、残したい日本の首風景 100 選「北上川河口のヨシ原」、イヌワシ繁殖地として国の天然記念物に指定されている「翁倉山」などがあります。また、受験合格祈願で人気の「釣石神社」、特産品の「十三浜ワカメ」は全国的にも有名です。

東日本大震災の津波で、北上町にあった 3 つの小学校のうち、相川小学校、吉浜小学校の 2 校が破壊されてしまいました。そのため、無事だった橋浦小学校の校舎で 3 校が 2 年間の合同生活を送ってきました。そして、この春、3 校は全校児童 130 名の北上小学校として統合され、新しいスタートを切りました。

### 2. 活動フィールドの様子

私たちの学校には裏山があります。震災後に避難場所として整地され、その後宮城県森林インストラクター協会のみなさんによって、環境教育防災林として整備していただきました。

私たちは、地震津波の避難訓練で定期的にこの裏山に登る以外に、北上プレーパーク有志の会のみなさんが主催する「うらやまでプレーパーク」の開催をきっかけに、放課後や休日の遊び場として遊びに行くようになりました。また、授業でも低学年が自然観察に行ったり 4 年生が巣箱を設置したりしています。



### 3. 活動の内容や様子

昨年度、5年生の総合的な学習の時間で「わたしたちの防災」という単元を立ち上げ、試行錯誤しながら取り組んできました。その学習チームの 1 つ「裏山改造計画」(11 名)では、「備える」「直す」「知らせる」という 3 つの視点から、裏山の問題点を探して改善策を話し合い、できることから実践してみました。

#### <備える>

- ・**倉庫の必要性**…学校から持ち出した備蓄品を一定期間保管するための倉庫や、燃料となる薪を風雨から守る薪小屋などが必要だと考えました。しかし、県の防災林に指定されているため、工事には許可が必要だと分かりました。
- ・**抜け道の必要性**…登り口が津波に削られて使えなくなった時のために、地域とつながる抜け道を知っておくとよいと思い、山の中を探し回りました。昔は道があったということでしたが、見つけることができませんでした。
- ・**水の必要性**…断水してしまった場合、水道に頼らず水を確保するため、「上総掘り」という方法で校庭に井戸を掘りました。しかし、1 時間で約 20 センチしか掘れませんでした。井戸を掘るのはとても大変なことだと分かりました。



#### <直す>

- ・**傾斜の緩和、滑り止めの必要性**…登り道はもっとも急なところで 20 度近い坂道です。地域の人にも登ることができるよう、①階段をつける②回り道を作る③丸太を埋め込むなどの方法を提案しました。
- ・**転落防止柵の必要性**…用務員さんに依頼し、坂道の最も急な個所に単管パイプで手すりを作ってもらいました。  
※後に埼玉県の消防署員のみなさんと地域の建設会社の方々の協力で枕木の階段が設置され、手すりも延長されました。



#### <知らせる>

- ・**登り口の案内板の必要性**…津波から避難するときや、遊びに行くときの目印になると思い作成しました。遊び場としてのマークと津波避難場所としてのマークをデザインに取り入れました。学校が高台に移転して今の場所に校舎がなくなっても残せる案内板にしたいと思い、裏山の名前を「橋浦自然の森」としました。
- ・**様々な表示の必要性**…森全体を示す案内板やコース名の表示、木の名前などを示す樹名板もあった方が親切で楽しいと考えました。時間の関係で取り組むことができなかったのが、今年の 5 年生に引き継ぎたいです。



## 石巻市立北上小学校



## 1 実践の成果

実践の効果や子どもの成長、今後の期待など

・いざというときに、裏山が自分たちや地域の人の命を守る場所となるということを感じながら、自らの手で裏山整備にかかわることができた。そして実際に、「傾斜の緩和」や「転落防止」、「案内板」などいくつかのテーマについて、多くの方々の協力をいただきながら、解決(整備)する

ことができた。

- ・危険を予測する力と判断する力を高め、実際に行動することが、防災や減災につながるのだという意識を高めることができた。
- ・何度も裏山に足を運び、裏山が身近になった。

## 2 実践の課題

苦労したことや困ったことなど



・震災時、相川小学校(閉校)では、下校した児童や引き渡した児童以外全員が裏山に登り命を取り留めた。裏山に登る行動は津波避難訓練により慣れてはいたが、実際には訓練の想定を超えたことから、山を越えて反対側にある施設へ向かうことになった。結果として避難は成功したが、この時の大変さ(手を使わなければ登れないような急な斜面だった)と、危うさ(施設に抜けることができることを知る教職員が一人しかいなかった)をもとに、今回の「斜面の緩和」や「抜け道」探しのテーマが設定された。今回の実践では、特に抜け道の発見にいたらなかったことが課題となる。

・「水の確保」というテーマへの対応として井戸掘りを行ったが、時間のかかることなので、計画的・定期的に取り組んでいかなければならなかった。

- ・仮設住宅近辺には遊び場がほとんどないこと、バス通学になったことによる放課後遊びの減少など、様々な要因から子供たちの体力低下や肥満問題が浮上している。このことにより、裏山の散策や探検が楽しいものではなく苦痛となってしまいうような児童もいた。
- ・今回の実践を通し裏山と深くかかわったのは、学級の児童28名中11名なので、その他の児童との経験の開きが懸念される。また、裏山の問題点を改善するために取り組みたいことがたくさん出されたが、学級の他の児童のテーマ「学校改造計画」「地域改造計画」と同時進行で調査発表したため、時間的な制約があった。
- ・環境を意図した活動は他の学年に任せ、5年生は防災に焦点化した裏山とのかかわりだった。

## 3 課題への対応

工夫したことや課題の解決策など

・教職員がもっと裏山に詳しくなるよう、職員研修として実地踏査を行う(今年度夏休み中に実施)。

・今年度の5年生も総合的な学習のテーマの一つとして、裏山を取り扱うことにした。昨年度の課題や未解

決の問題を引き継ぎたい。

- ・環境教育としてどんなことがどのようにできるのか、プログラム開発をしていく必要がある。自然を活用した遊びについては北上プレーパークの方々と連携も視野に入れる。

## 4 その他

今後の計画や方向、抱負や希望など



・北上小学校初年度の学校教育目標は「ふるさとを愛し、豊かな知恵と心をもち、たくましく生きる児童の育成」である。また、校内研究主題は「ふるさと北上に誇りと愛着が持てる児童の

育成」とした。ふるさとの自然豊かさや自然の中で遊ぶ楽しさを発見する場として、裏山をより積極的に活用していきたい。

